



## The Japanese-French Oceanographic Society

3-9-25 Ebisu, Shibuya-ku, Tokyo 150-0013, Japan

<http://www.sfjo-lamer.org>

日仏海洋学シンポジウムは、日本とフランスで、およそ 2-3 年の間隔で行われており、第 15 回日仏海洋学セミナーはフランスの Boulogne sur Mer と Marseille で 2013 年 10 月に「Marine Productivity: perturbation and resilience of coastal socio-ecosystems」というテーマで開催されました。現在、温室効果ガスの増大による気候変動、海洋酸性化、巨大台風、津波、沿岸域海面の過剰利用、富栄養化、貧栄養化などの自然的・人工的な影響が海洋に著しい影響を及ぼしています。海洋学は、このような海洋の兆候を観測し、プロセスを理解し、将来を予測しなければなりません。また、問題解決には人間的側面を考慮する必要があります。そこで、第 16 回日仏海洋学セミナーを 2015 年 11 月 19 日から 21 日に「The sea under human and natural impacts: challenge of oceanography to the future Earth」というテーマの下、海洋学が現在直面する海洋の問題を解決するためにどのような役割を果たせるのかについて検討するため、塩竈と東京でシンポジウムを開くことになりました。特に東日本大震災による大津波では、被災した三陸沿岸の漁業復興に際し、養殖に必要なプランクトンネット、顕微鏡、ブイ、ロープ、ライフジャケットなどの物的支援が、日仏海洋学会（フランス）をはじめ多くのフランスの人々や組織から寄せられました。そこで、このシンポジウムの機会に、フランス人参加者を中心とした、復興状況についての現地視察と地元漁業者の方々との交流を図るために、被災した三陸の塩竈で開催することを企画しました。現在、水産総合研究センター東北区水産研究所、公益財団法人日仏会館、笹川日仏財団との共催として、準備を進めております。今回のシンポジウムでは、今後の海洋分野における日仏の共同研究推進や日仏海洋学会員との交流の機会をつくることが可能です。皆様のふるってのご参加をお待ちしております。

日仏海洋学会 会長 小松 輝久